

情報ネット後志

NO. 11 2014年1月

発行：後志農業改良普及センター

地域の話題

平成24年度に成果の上がった活動

生産組織の活動紹介



地域一体となった新規参入者の確保

所長 金光 優

後志の農業経営体数は近年10年間で約70%に、20年間では50%に減少しています。最近では年に約100戸の離農者に対して新規就農者は約40戸です。新規参入者を含めた新規就農者の確保が、地域の重要課題になっています。そのような中、農外からの新規参入の希望者が従来から注目されていますが、地域での受入体制、就農のための農地の確保や研修体系等の整備が必須です。新規参入には経営、農地、資金、研修等が関連するため地域一体となった取り組みが肝要です。農業改良普及センターは経営や技術の支援を通して「就農者が意欲をもって残れる地域作り」を関係する機関と連携し推進します。

まだまだ健在 銘品「寿(ことぶき)長いも」(寿都町)

担当：南後志支所 地域係

11月上旬、寿都町湯別地区の金木さんが、長いもの収穫最盛期を迎えていました。

長いも畑がある浜中地区は海岸に隣接した砂地で、水はけの良さを活かして高品質な長いもが生産されています。

寿都町では、かつて10名ほどのメンバーで、「寿長いも」ブランドを育ててきました。しかし、高齢化によって栽培者が年々減少し、今では金木さん1人が栽培を続けています。

青臭さがなく、甘いなどと評判の銘品「寿長いも」には固定客が多く、個人販売が大半を占めるそうです。



平成 24 年度に成果が上がった活動

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「きたかむい」の栽培技術の確立と普及

(留寿都村) 担当：本所 地域第3係

1 活動の背景

当地域の基幹作物である馬鈴しょの産地維持のため、普及センターではジャガイモシストセンチュウ（以下センチュウ）抵抗性品種の導入を推進しています。

「きたかむい」の栽培技術は既存品種と異なるため、種子栽培農家および一般栽培農家の協力を得て、技術の確立と普及を目指した活動に取り組みました。



「きたかむい」の花と塊茎

2 栽培農家との連携による「きたかむい」に適した栽培技術の検討と確立

栽培検討項目	「きたかむい」に適した栽培技術
栽植密度	大玉化しやすいため、5,000株/10a程度とする
窒素施肥量	施肥標準以下(7~8kg/10a)にすることで、収量・品質が向上する
欠株回避	浴光催芽を行い、頂芽優勢を打破する 頂芽側から手切りして植え付ける

種いもの手切り作業は手間がかかりますが、欠株を回避し栽植株数を確保することができます！（普及指導員）



3 栽培資料の活用と「きたかむい」の適正な栽培技術の提案と実践

取り組み結果から栽培暦や品種特性などの栽培資料を作成し、講習会や戸別巡回により種子および一般栽培農家へ栽培技術を提案しました。栽培農家は「きたかむい」の栽培技術を実践したことで、生産性の向上につながりました。



栽植密度と窒素施肥量を見直したことで、大玉が少なくなったよ！

(栽培技術取り組み農家)



種子馬鈴しょ栽培暦

普及センターでは「きたかむい」栽培技術のさらなる普及を図るとともに、関係機関との連携による販売促進に係る検討を行い、センチュウ抵抗性品種の定着を支援します。

1 稲わら収集の呼びかけ

仁木町の水田は、透水性の悪いほ場が多く、高品質米生産には、乾田化が課題となっていました。この対策として町では、H20年に「ロールベラー」4台を導入し、水稻農家に貸与しましたが、労働力不足や費用負担が大きく十分に活用はされていませんでした。

このため、普及センターでは、町・農協とともに、稲わら収集実践ほ場の生育を追跡調査し、春鋤こみに比べ収量増加や蛋白低下の効果が大きいことを水稻生産者に示しました。

2 町内の稲わら「収集から流通までのしくみ」づくり

稲わら収集効果の提示とともに、関係機関と生産者組織で、オペレーター確保や負担軽減を図る方法を検討し、以下の様な取り決めを設定しました。

町内の水稻生産2組織ごとに利用体系設定
収集機オペレーターはJA職員

(委託農家の新たな費用負担なし)

ロールベラー利用料金は 500円/1時間(個人・JA委託共通)
(JA委託の場合:ロールはJAに譲渡、燃料・修理代は使用者負担)

個人で梱包、ほ場内買取価格 50円/1ロール

(路肩買取価格 150円/1ロール)

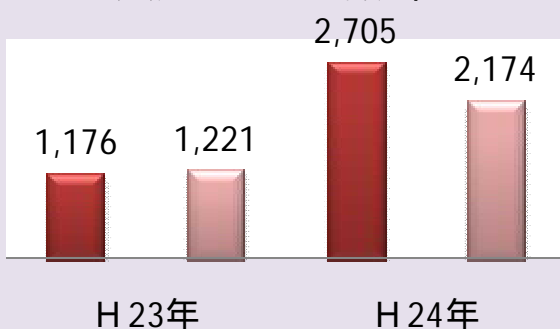


収穫機の作業風景(JA)

3 稲わら収集効果の波及

このような、収集効果の提示と収集から流通までのしくみの設定により、H24年から収集個数は、大幅に増加しました。また、園芸農家にも、軽いロール(20kg以下)が好評です。普及センターでは、この事例をもとに、地域の水田の乾田化を一層進めていきます。

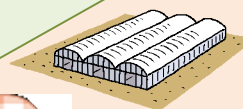
■ 大江地区 ■ 銀山地区



稲わら収集個数の推移

町内園芸農家への稲わら販売 240円/1ロール

ハウスに稲わらを敷くと土が軟らかくなり作物にも良い
軽いロールは女性でも扱いはラクラク!



TMRセンター稼働で飼料供給の開始！

担当：本所 広域 生産合理化・組織化主査

ニセコ町内の酪農家6戸で設立された「合同会社フロンティアニセコ」は、本年5月に完成したTMRセンターを基盤としたサイレージの共同生産と濃厚飼料を混合した飼料(TMR)の配送を9月より開始しました。

TMRセンターは、粗飼料の共同生産と濃厚飼料を混合したTMRを構成員へ供給する言わば給食センターの様な組織です。この組織は、土地・機械施設の効率的利用を前提とした生産インフラの整備と適正に設計された飼料の給与により、粗飼料・生乳生産量の拡大や省力化を実現するものです。

フロンティアニセコにも、約1,000m³の貯蔵容量を持つバンカーサイロが13基とサイレージと濃厚飼料を混合する飼料調整庫があり、収穫作業や飼料づくりに必要な機械が装備されました。



原料草の運搬は業者に委託



念入りの踏圧作業で密度向上



ミキサーに飼料を投入し混合

今年のサイレージは大型機械により、短期間の収穫・貯蔵が実践され、普及センターの調査から高密度で発酵品質の高いサイレージが生産されたことを確認しました。



圧縮梱包したTMRを配送



サイレージを抜き取り 密度を調査

表1 牧草サイレージの分析値(酸組成)

分析サンプル	1番草	1番草	2番草
酢酸%	0.54	0.39	0.53
酪酸%	未検出	未検出	未検出
NH ₃ -N/TN%	5.80	7.96	6.38
Vスコア	95	93	94

Vスコア80以上は、
発酵品質が良です！

サイロ断面の6ヶ所の乾物密度は
全て150kg以上と、高密度！

195	200	170
	kg/m ³	
215	213	200



9月からは、ビニール袋に圧縮梱包されたTMRが構成員の牧場に供給され、生産乳量の増産に向けた取り組みがスタートしています。

後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭57-1
TEL 0136-22-1072
FAX 0136-22-4744
shiribeshi-nokai.1@pref.hokkaido.lg.jp

南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内309
TEL 0136-72-3161
FAX 0136-72-3456
shiribeshi-nokai.minami1@pref.hokkaido.lg.jp

北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町11番地1
TEL 0135-22-5135
FAX 0135-22-5987
shiribeshi-nokai.kita1@pref.hokkaido.lg.jp